

# 新型コロナウイルス感染症に係るアンケート結果のご報告

令和3年11月 飯島町新型コロナウイルス感染症対策本部

## 1. 調査目的

新型コロナウイルスの感染拡大により、町民の皆さんの生活がどのような影響を受け、また、どのような支援を必要としているか等を把握し、今後のコロナ対策の政策等に役立てるため

## 2. 調査推進体制

- (1) 調査内容の調整及び依頼文・調査票の作成（総務課庶務係）
- (2) 調査票の印刷・発送及びWEB回答の調整（同 文書情報係）
- (3) 依頼時の注意喚起作成、回答調査票の受付及び入力・集計作業（同 危機管理係）
- (4) アンケート結果の詳細分析及び施策反映等（各所管課・係）

## 3. 調査対象

町内在住の16歳以上の方から、無作為に3,000人を抽出

## 4. 調査期間

令和3年7月中旬～10月13日（最終到着）

## 5. 依頼及び調査内容

別添ファイルのとおり（※依頼文書、注意喚起、アンケート用紙・全18問）

## 6. 調査方法及び回答方法

- (1) アンケートの依頼文及び感染対策の注意喚起を添えて、対象者へ郵送（7/16）
- (2) ながの電子申請を利用したインターネット回答（～8/10）
- (3) いいちゃんポストへの投函や役場への直接提出など（～10/13）

## 7. 回答者数及び回答率

回答者数：1,130人（WEB：206人、紙：924人） 回答率：37.7%

## 8. アンケート結果に対する町の見解

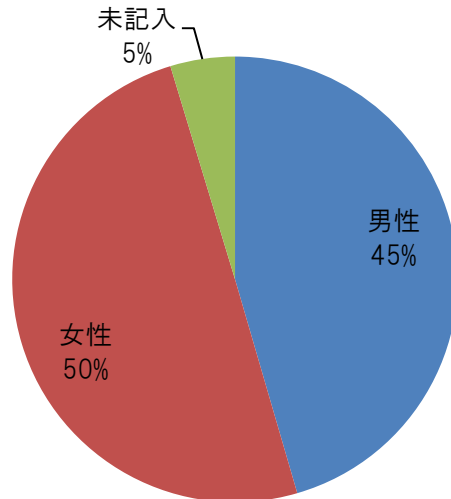
アンケート結果のうち、町の施策に関係しているものについては、広報いいじま11月号（P11-15）において、今後の取り組みや施策の方向性等に対する町の見解を掲載しましたので、併せてご覧ください。

## 9. 回答結果（※プルダウン回答分。自由筆記分は、別添ファイルのとおり）

### (1) 基礎項目

回答者の性別、年代、同居家族、世帯人数、居住地区、主な仕事、勤め先や学校の所在地を調査

## ■基礎項目1 あなたの性別

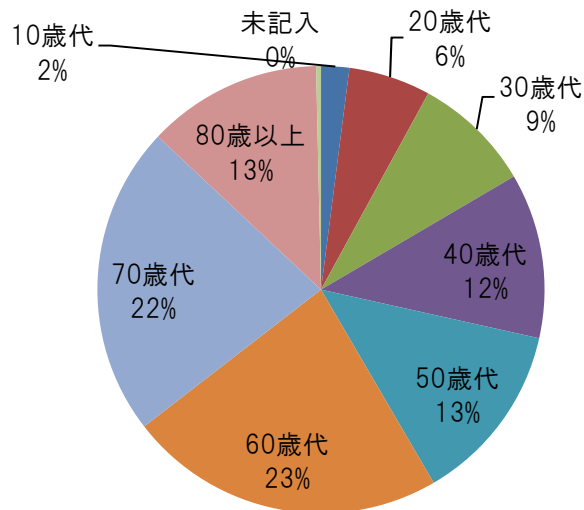


▲男性：514人（45%）、女性：563人（50%）、未記入：53人（5%）

### 【考察】

- ・60歳代のみ男性の回答率が上回り50%、女性が46%であった。また、80歳以上では男女とも同数で各46%であった。

## ■基礎項目2 あなたの年代

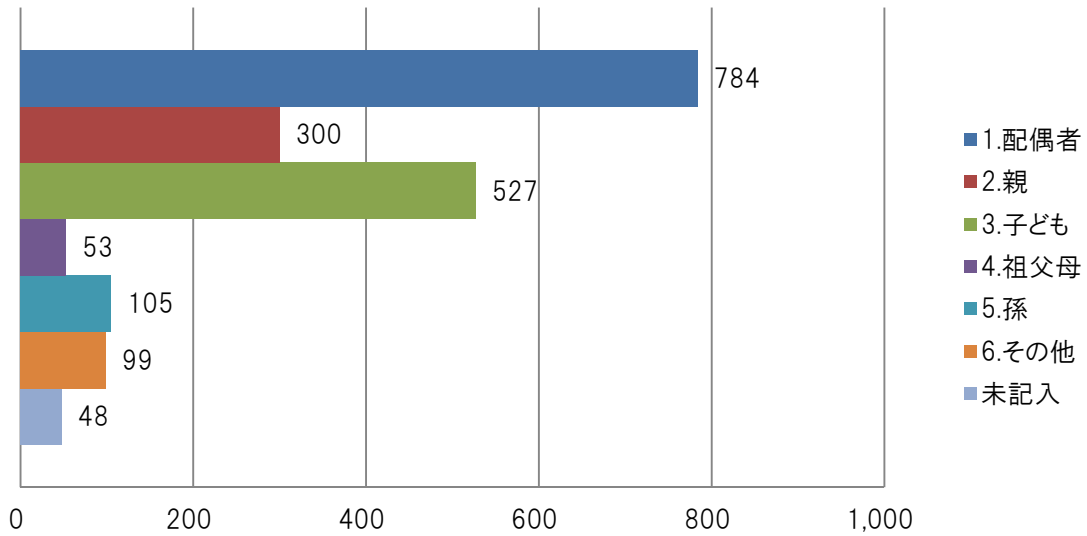


▲10歳代：23人（2%）、20歳代：67人（6%）、30歳代：97人（9%）、40歳代：135人（12%）、50歳代：148人（13%）、60歳代：259人（23%）、70歳代：254人（22%）、80歳以上：143人（13%）、未記入：4人（0%）

### 【考察】

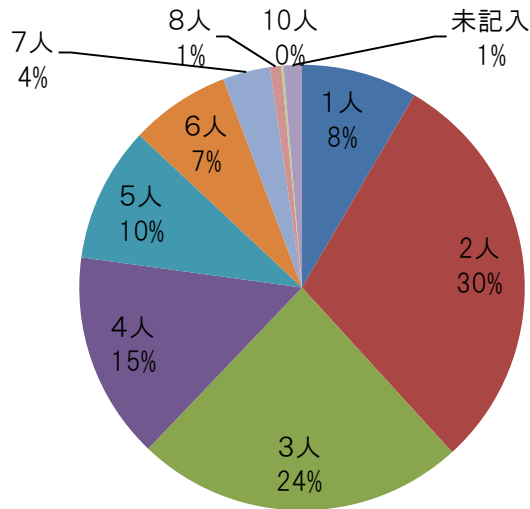
- ・60歳代と70歳代で全体の45%を占め、高年層からの回答が多い結果となった。
- ・その一方で、全体回答に占めるWEB回答の割合は、10歳代から40歳代にかけて約35~45%の方に利用いただき、若年層や中年層の回答増加につながった。

### ■基礎項目3 同居している家族（複数回答）



▲配偶者：784人、親：300人、子ども：527人、祖父母：53人、孫：105人、その他：99人、未記入：48人

### ■基礎項目4 世帯人数（記入）

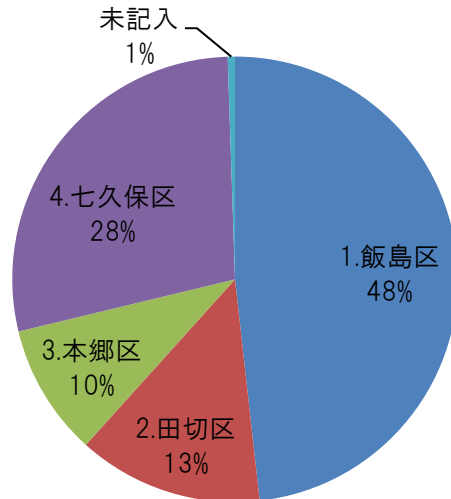


▲1人：95人（8%）、2人：337人（30%）、3人：270人（24%）、4人：170人（15%）、5人：111人（10%）、6人：82人（7%）、7人：39人（4%）、8人：9人（1%）、10人：2人（0%）、未記入：15人（1%）

#### 【考察】

- ・ 2人ないし3人が 50%を超え、過半数が比較的少人数の家族の方からの回答であった。
- ・ このうちの約60%弱が、回答の多かった60歳代と70歳代の方であった。

## ■基礎項目5 お住まいの地域

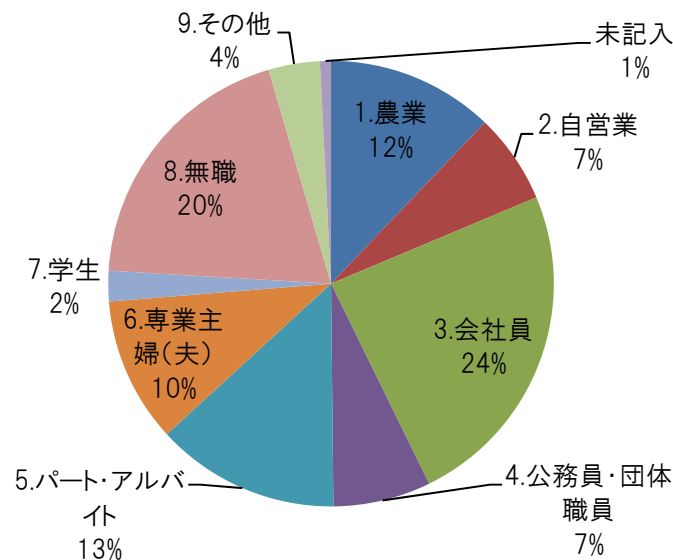


▲飯島区：545人（48%）、田切区：152人（13%）、本郷区：108人（10%）、七久保区：319人（28%）、未記入：6人（1%）

### 【考察】

- ・アンケート発送時点での地区別人口は、飯島区：4,589人（49.3%）、田切区：1,091人（11.7%）、本郷区：794人（8.5%）、七久保区：2,835人（30.5%）であり、ほぼ比例している状況であった。

## ■基礎項目6 あなたの主な仕事



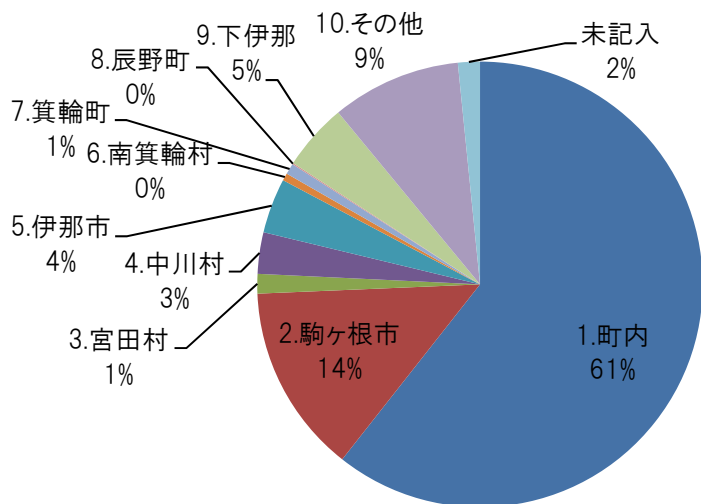
▲農業：137人（12%）、自営業：74人（7%）、会社員：272人（24%）、公務員・団体職員：80人（7%）、パート・アルバイト：151人（13%）、専業主婦（夫）：119人（10%）、学生：25人（2%）、無職：221人（20%）、その他：42人（4%）、未記入：9人（1%）

### 【考察】

- ・会社員がおよそ4分の1を占め、次いで無職、パート・アルバイト、農業と続いている。なお、無職が20%を占めたことは、高年層からの回答が多かったこと

とが反映された結果であることがうかがえる。

### ■基礎項目7 勤め先の所在地

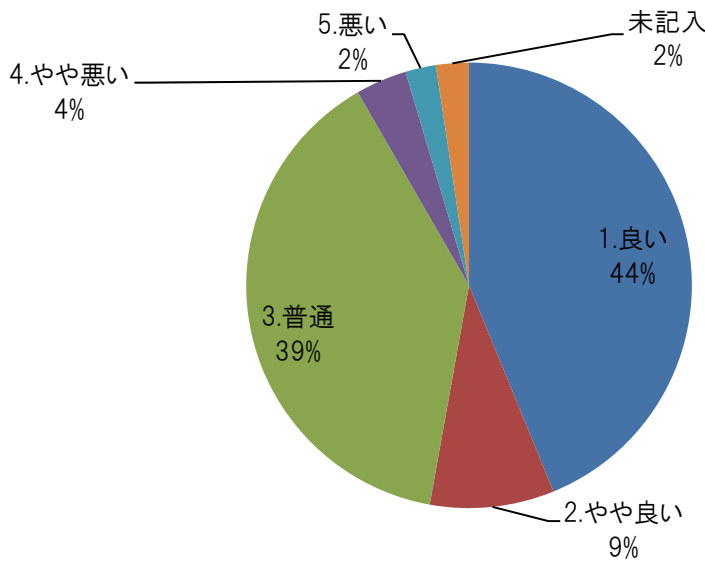


▲町内：685人（61%）、駒ヶ根市：155人（14%）、宮田村：16人（1%）、中川村：34人（3%）、伊那市：45人（4%）、南箕輪村：6人（0%）、箕輪町：9人（1%）、辰野町：1人（0%）、下伊那：55人（5%）その他：106人（9%）、未記入：18人（2%）

#### 【考察】

- ・町内及び駒ヶ根市での勤務が75%を占め、比較的近隣での就労傾向がうかがえる。なお、無職や専業主婦（夫）は、町内として答えた方が85%と多く、それ以外はその他として答えている。

■問1 感染対策に関する町からの防災無線・いいちゃんメール等による注意喚起について、どう思いますか。(1つに○・自由筆記別途)

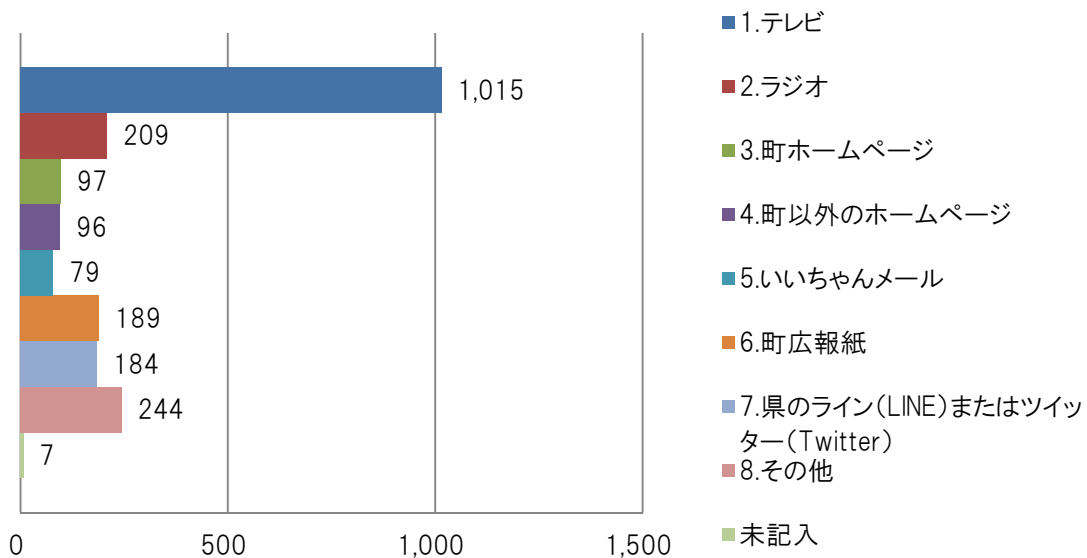


▲「良い」：495人（44%）、「やや良い」：102人（9%）、「普通」：439人（39%）、「やや悪い」：42人（4%）、「悪い」：25人（2%）、未記入：27人（2%）

【考察】

- ・「良い」、「やや良い」は53%と過半数を超え、「普通」を加えると90%以上となっていることから、大多数の理解は得られており、継続して注意喚起を行う。
- ・その一方で、自由筆記では「防災無線が聞こえない」や「いいちゃんメールを知らない」といった声が一定数寄せられ、防災無線を補完する情報発信の多元化の検討や防災無線に連動するCEK音声告知端末の推奨、いいちゃんメールの加入促進を進める。
- ・併せて、注意喚起の内容や頻度等は、コロナの感染拡大を踏まえ、変化や工夫に努める。

■問2 新型コロナウイルスに関する情報をどこから入手していますか。(該当する全てに○・複数回答)

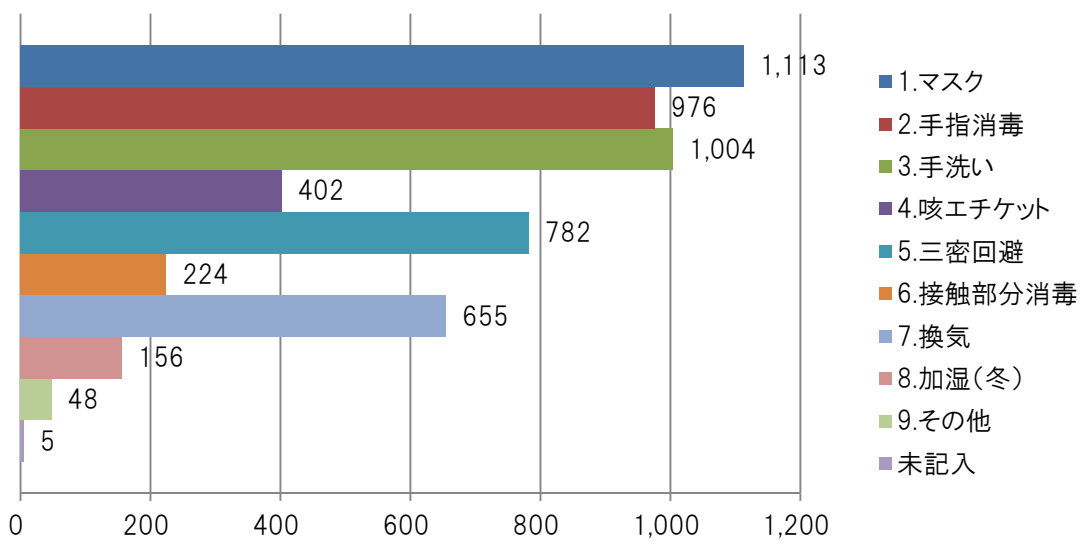


▲「テレビ」：1,015 人、「ラジオ」：209 人、「町ホームページ」：97 人、「町以外のホームページ」：96 人、「いいちゃんメール」：79 人、「町広報紙」：189 人、「県のライン・ツイッター」：184 人、「その他」：244 人、未記入：7 人

【考察】

- ・「テレビ」が圧倒的に多く、次いで「その他」では新聞やインターネット閲覧など、「ラジオ」と続く。
- ・町が行う情報発信も一定数ご利用いただいております、今後も充実に努める。

■問3 日常生活で実施している基本的な感染対策は何ですか。  
(該当する全てに○・複数回答)

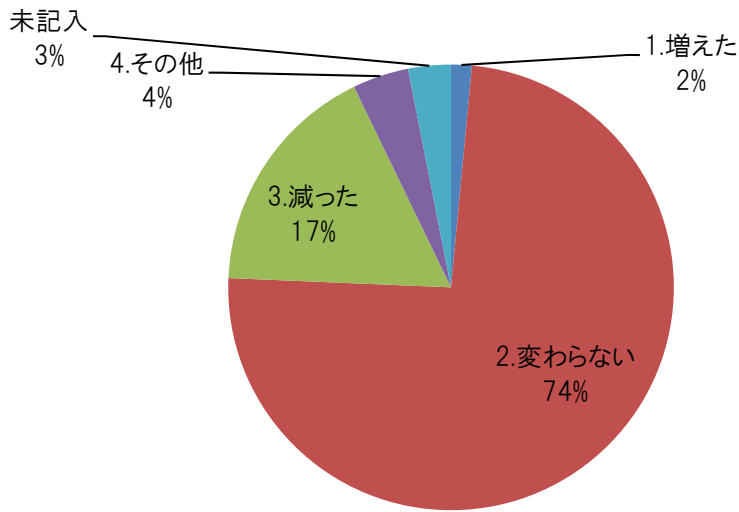


▲「マスク」：1,113 人、「手指消毒」：976 人、「手洗い」：1,004 人、「咳エチケット」：402 人、「三密回避」：782 人、「接触部分消毒」：224 人、「換気」：655 人、「加湿(冬)」：156 人、「その他」：48 人、未記入：5 人

【考察】

- ・日常生活における基本的な感染対策について、「マスク」が一番多く、次いで「手洗い」、「手指消毒」、「三密回避」、「換気」と続く。
- ・単独の感染対策は 24 人のみとなっており、ほとんどの方が日常生活の様々なシーンで、何かしら複数の感染対策を実施していることがうかがえる。

■問4 令和2年の所得は、令和元年に比べ新型コロナウイルスの影響を受けてどう変わりましたか。(1つに○)



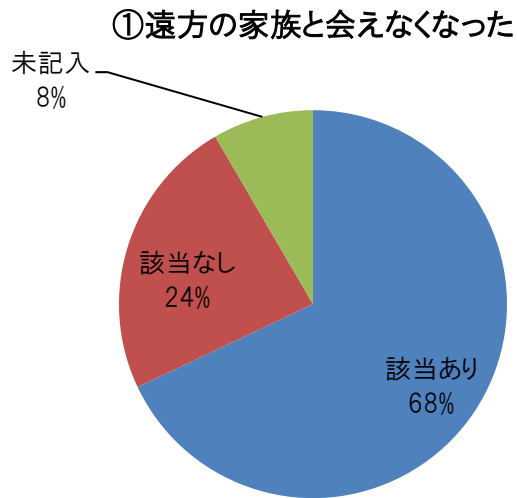
▲「増えた」：17人(2%)、「変わらない」：838人(74%)、「減った」：194人(17%)、「その他」：46人(4%)、未記入：35人(3%)

【考察】

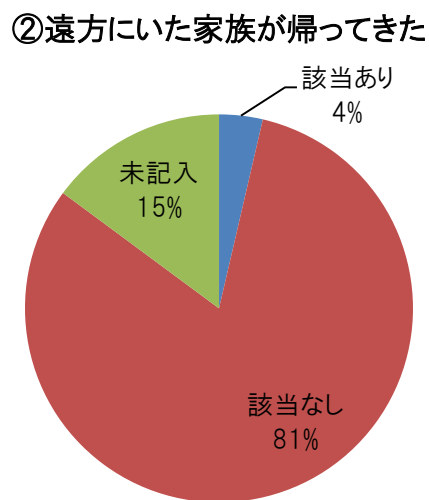
- ・回答者の4分の3が「増えた」または「変わらない」である一方、「減った」を年代別にみると、30歳代～70歳代までを中心に各年代に分布している。
- ・主な仕事別で見ると、いずれの選択肢でも減収者があり、「農業」「自営業」「会社員」の比率が高く、一方「公務員・団体職員」は低く、「パート・アルバイト」はやや低い傾向であった。
- ・減収者のうち仕事が減った人の年代を見ると、30歳代～50歳代が多く、このうち仕事を辞めた方は21人であった。
- ・減収の割合をみると、1～3割が多く、4割以上の減収者も確認された。また、仕事別では「農業」「自営業」「パート・アルバイト」で5割を超える減収者も確認され、一部の町民に収入や就労で大きな影響が出ている。



■問5 収入面以外に生活の中で変わったのはどんなことですか。  
(該当するいずれかに○・一部自由筆記別途)

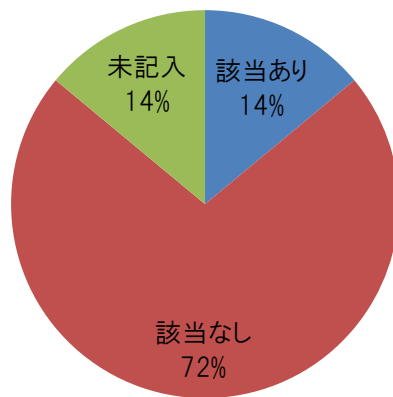


▲「該当あり」：768人(68%)、「該当なし」：267人(24%)、未記入：95人(8%)



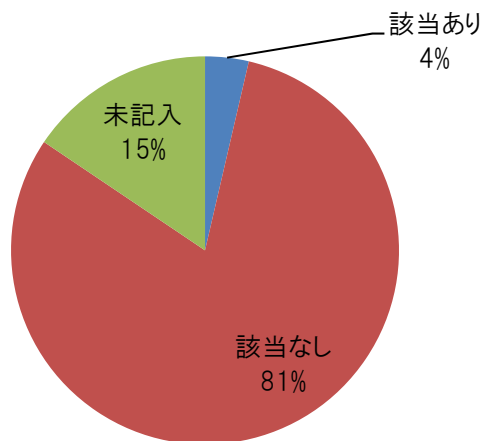
▲「該当あり」：41人(4%)、「該当なし」：921人(81%)、未記入：168人(15%)

### ③仕事が減った



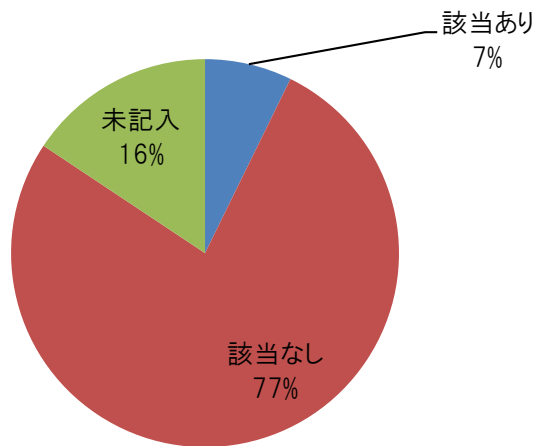
▲「該当あり」: 158 人 (14%)、「該当なし」: 814 人 (72%)、未記入: 158 人 (14%)

### ④仕事を辞めた



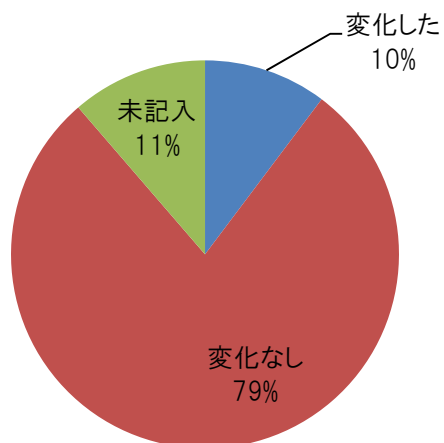
▲「該当あり」: 41 人 (4%)、「該当なし」: 913 人 (81%)、未記入: 176 人 (15%)

⑤テレワークが導入された

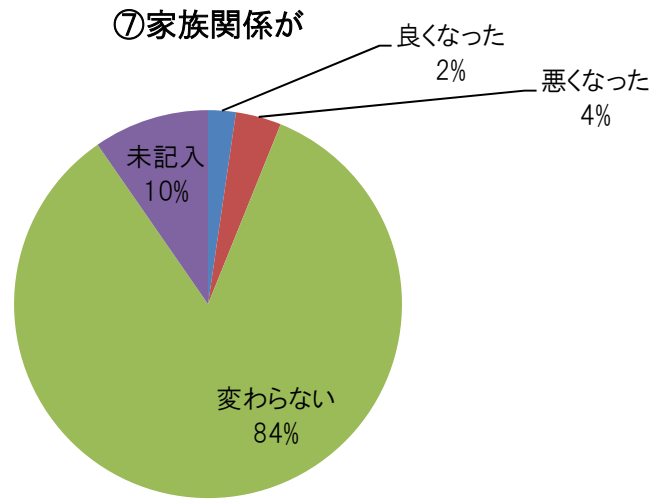


▲「該当あり」: 82 人 (7%)、「該当なし」: 871 人 (77%)、未記入: 177 人 (16%)

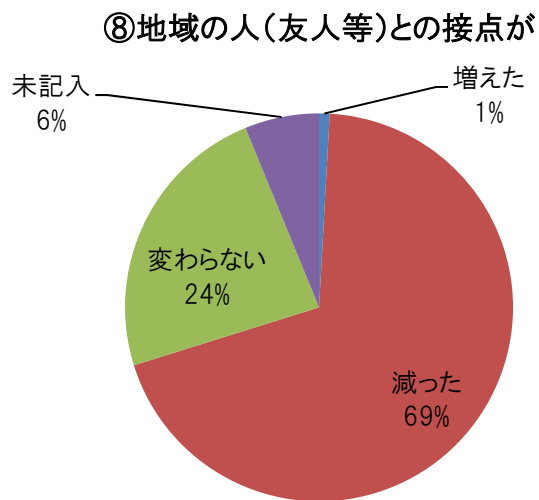
⑥マスクやアルコール消毒で体調が



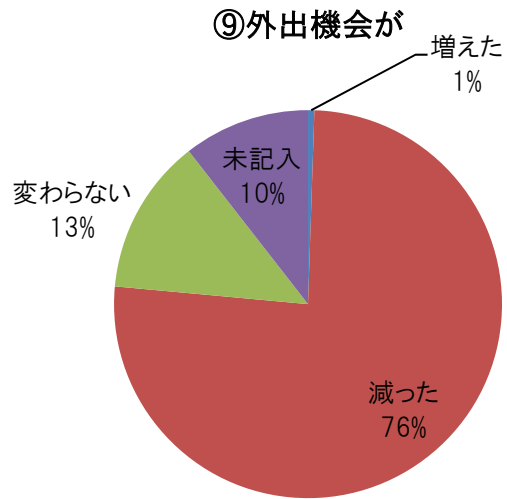
▲「変化した」: 116 人 (10%)、「変化なし」: 886 人 (79%)、未記入: 128 人 (11%)



▲「良くなった」：26 人 (2%)、「悪くなった」：43 人 (4%)、「変わらない」：952 人 (84%)、未記入：109 人 (10%)

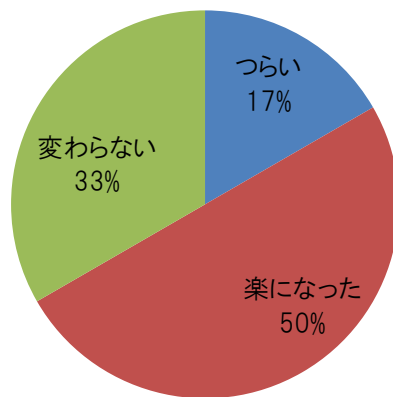


▲「増えた」：10 人 (1%)、「減った」：783 人 (69%)、「変わらない」：267 人 (24%)、未記入：70 人 (6%)



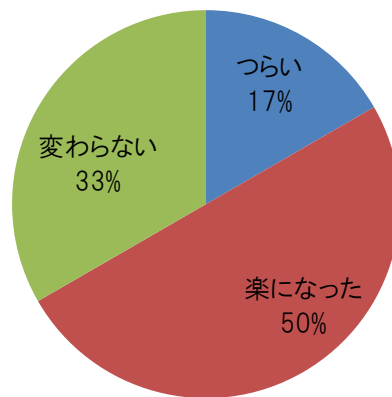
▲「増えた」：6人（1%）、「減った」：858人（76%）、「変わらない」：147人（13%）、未記入：119人（10%）

⑩-A-1外出機会が増え、精神的に



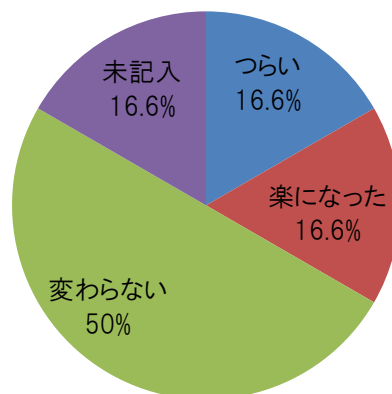
▲「つらい」：1人（17%）、「楽になった」：3人（50%）、「変わらない」：2人（33%）

⑩-A-2外出機会が増え、身体的に



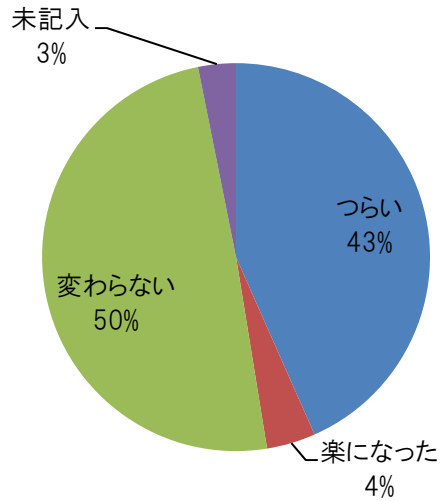
▲「つらい」:1人(17%)、「楽になった」:3人(50%)、「変わらない」:2人(33%)

⑩-A-3外出機会が増え、経済的に



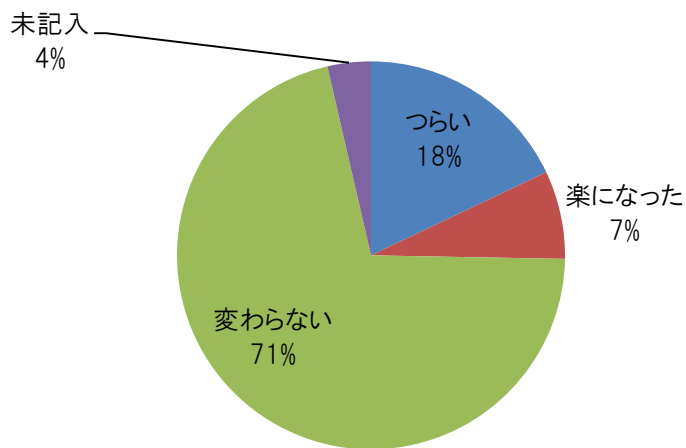
▲「つらい」:1人(16.6%)、「楽になった」:1人(16.6%)、「変わらない」:3人(50%)、  
未記入:1人(16.6%) (※円グラフの%は端数調整され自動表示)

⑩-B-1外出機会が減り、精神的に



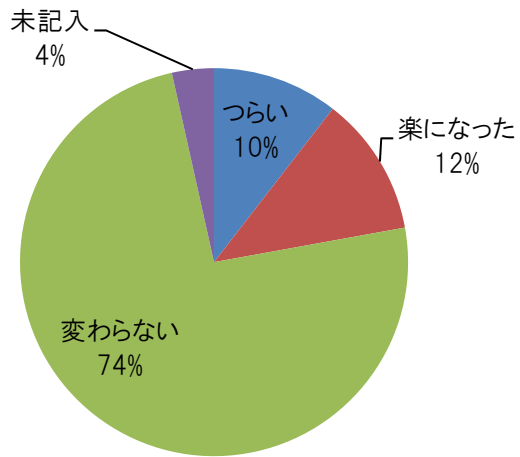
▲「つらい」：372人（43%）、「楽になった」：35人（4%）、「変わらない」：424人（50%）、未記入：27人（3%）

⑩-B-2外出機会が減り、身体的に



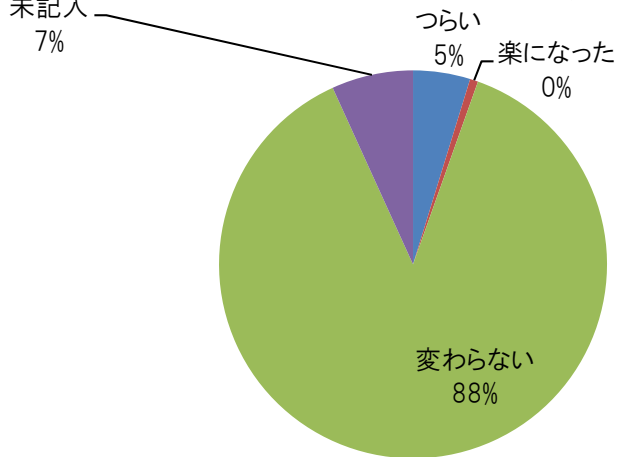
▲「つらい」：154人（18%）、「楽になった」：63人（7%）、「変わらない」：610人（71%）、未記入：31人（4%）

⑩-B-3外出機会が減り、経済的に



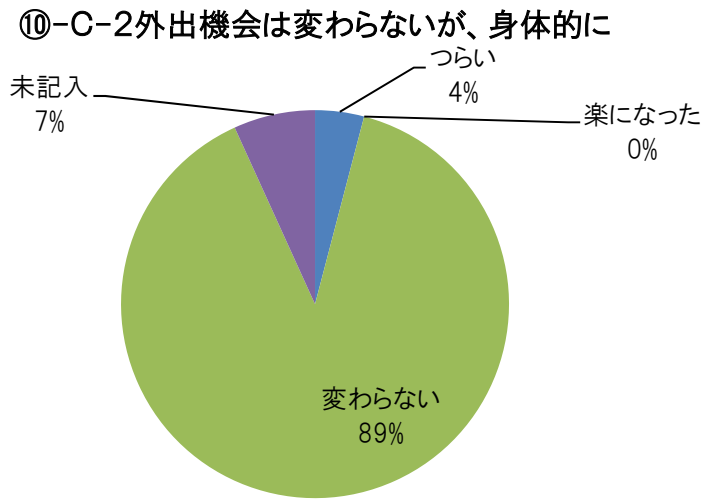
▲「つらい」：90人（10%）、「楽になった」：100人（12%）、「変わらない」：638人（74%）、未記入：30人（4%）

⑩-C-1外出機会は変わらないが、精神的に

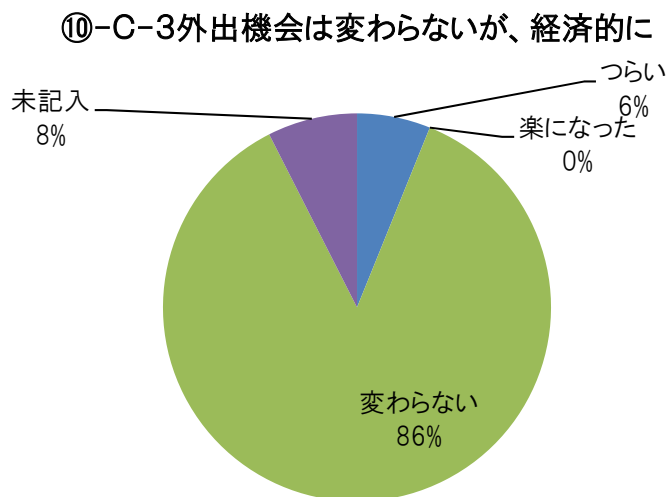


▲「つらい」：7人（5%）、「楽になった」：1人（0%）、「変わらない」：129人（88%）、未記入：10人（7%）

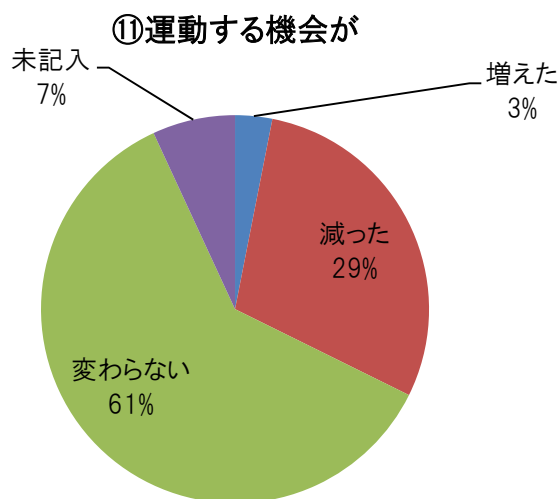




▲「つらい」：6人（4%）、「楽になった」：0人（0%）、「変わらない」：131人（89%）、未記入：10人（7%）



▲「つらい」：9人（6%）、「楽になった」：0人（0%）、「変わらない」：127人（86%）、未記入：11人（8%）

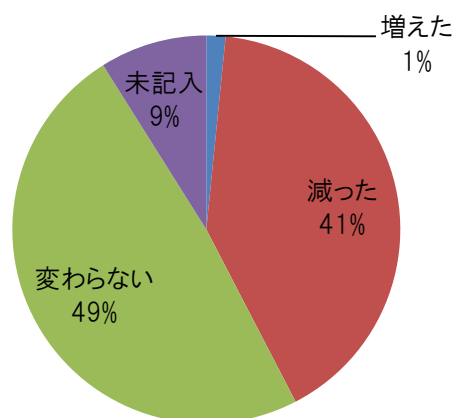


▲「増えた」: 35 人 (3%)、「減った」: 330 人 (29%)、「変わらない」: 687 人 (61%)、未記入 : 78 人 (7%)

【考察】

- ・「変わらない」が6割以上である理由は、コロナ禍になる前から運動の機会や習慣がなかったことが考えられる。
- ・「減った」が3割程度ある理由は、体育施設の使用中止や大会等の中止、またそれぞれの競技の特性上、人との接触がある競技の自粛等が影響したと考えられる。
- ・「増えた」理由としては、家にいる時間や自分の時間が増え、ウォーキングやランニングを始めた方や今までやっていた運動の回数が増えたことが考えられる。

⑫文化・生涯学習活動を行う機会が

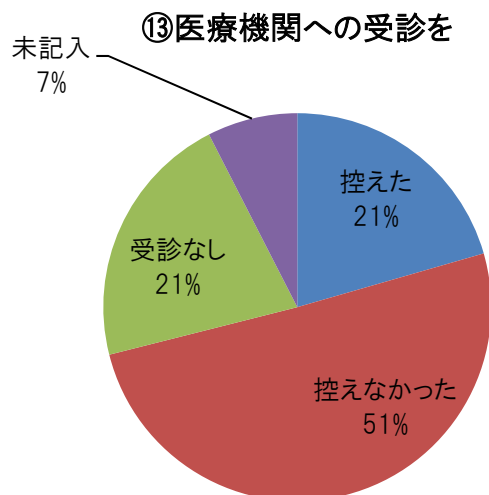


▲「増えた」: 18 人 (1%)、「減った」: 461 人 (41%)、「変わらない」: 550 人 (49%)、未記入 : 101 人 (9%)

【考察】

- ・「減った」が4割以上である理由は、サークルの休会や集会・学習機会の減少が影響していると考えられる。
- ・「増えた」理由としては、家にいる時間や自分の時間が増え、文化活動や生涯学

習の時間が確保できたことが要因と考えられる。

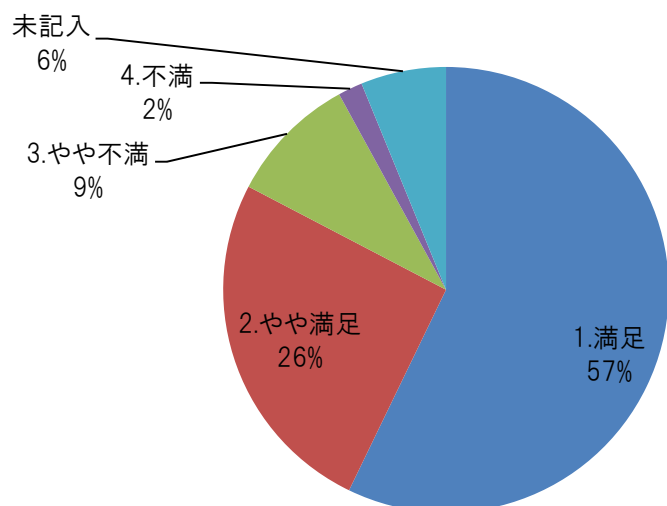


▲「控えた」：232人（21%）、「控えなかった」：571人（51%）、「受診なし」：242人（21%）、未記入：85人（7%）

【考察】

- ・「控えなかった」が半数以上である背景には、定期的な受診や予約によるものであると考えられる。
- ・「控えた」理由としては、病院での待ち時間の長さや院内や診療に行き来する家庭での感染への心配、一部診療科目（歯科や皮膚科等）は我慢したことなどが考えられる。
- ・その他、自由筆記では、新しい生活様式や日常における感染対策の定着により、体調を崩すことが少なくなり、受診の必要がなかったという声も寄せられた。

■問6 ワクチン接種を予約制ではなく年代順に進めていますが、その取り組みについてどう思いますか。（1つに○・自由筆記別途）

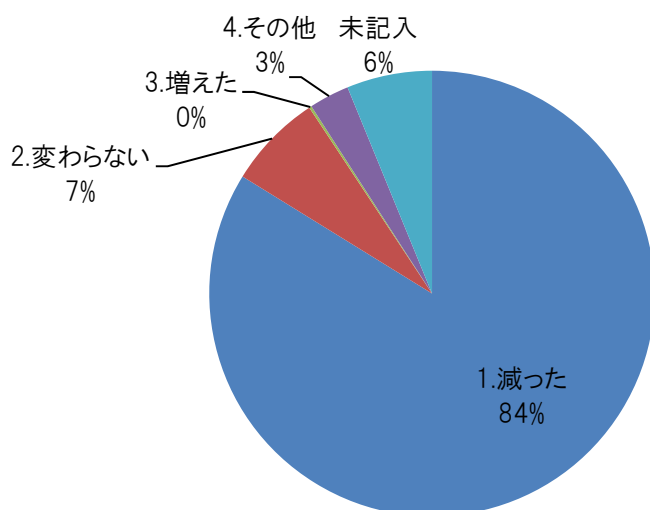


▲「満足」：646人（57%）、「やや満足」：288人（26%）、「やや不満」：106人（9%）、  
「不満」：20人（2%）、未記入：70人（6%）

【考察】

- ・「満足」と「やや満足」が8割を超え、すべての年代の方が含まれていることから、おおむねご理解いただけていると思われる。
- ・自由筆記の主な内容としては、「満足」や「やや満足」では予約の必要がなくても接種できること、また「やや不満」や「不満」では働き盛りや行動年齢からの接種を希望する声や接種スピードの遅さに対する意見が寄せられた。
- ・特に、30歳代～50歳代の方から、働き盛りや若者への接種を早くすべきといった声が多く、本人や子ども世代への早期接種希望が寄せられた。

■問7-1 自治会等地域での会議やイベントはどうなりましたか。(1つに○)

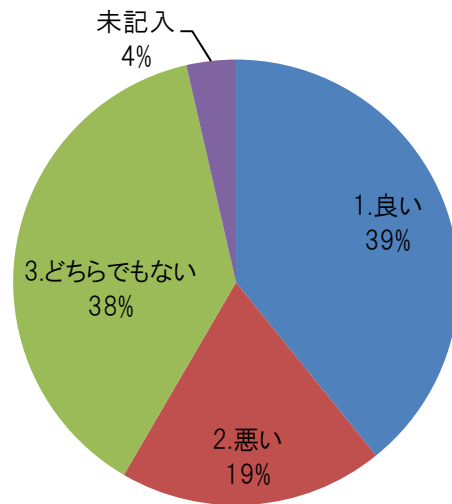


▲「減った」：947人（84%）、「変わらない」：78人（7%）、「増えた」：2人（0%）、  
「その他」：33人（3%）、未記入：70人（6%）

【考察】

- ・「減った」が8割以上であり、多くの自治会や地域での会議やイベントが軒並み減少していることがうかがえる。特に、会議では書面でのやり取りや一部役員に絞っての開催へ移行したことなどが考えられる。

■問7-2 自治会等地域での会議やイベントが、「減った」ことでどう感じますか。  
(1つに○・自由筆記別途)

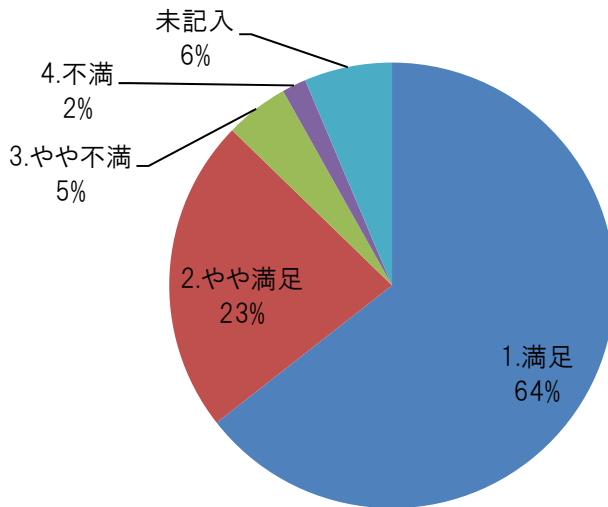


▲「良い」:371人(39%)、「悪い」:182人(19%)、「どちらでもない」:360人(38%)、  
未記入:34人(4%)

【考察】

- ・「減った」ことに対する感じ方は、「良い」と「どちらでもない」が拮抗するとともに、「悪い」も2割程度あり分散傾向にあった。
- ・自由筆記から、「良い」では、自由な時間ができた。今まで無駄な会議が多かった。感染リスクが減るなどの声が多く、結果的に役員や住民負担の軽減につながったと思われる。
- ・「悪い」では、人と会わなくなり寂しい。老人や子どもの行事等がなく困っている、かわいそう。自治会の意思疎通が図れないといった声が多く、孤独感の増大や地域コミュニティの希薄化への不安等が寄せられた。
- ・「どちらでもない」は、「良い」と「悪い」の狭間での意見が多く、その他、従前と変わらないので不便はないといった声が寄せられた。

■問8 くらし復興券事業の満足度について、次のどれに当てはまりますか。  
(1つに○・自由筆記別途)

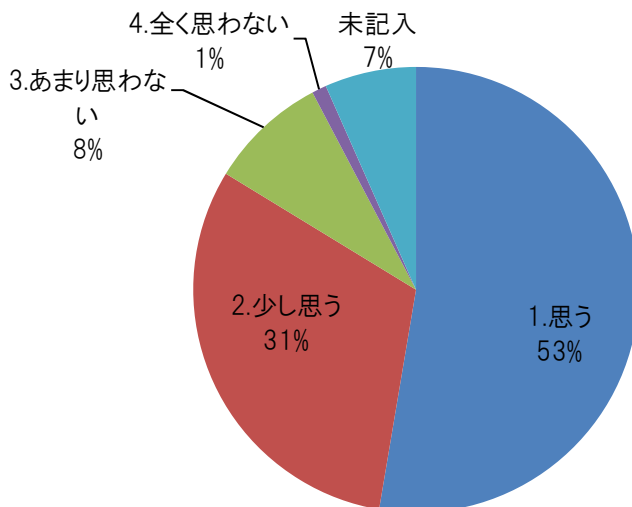


▲「満足」：728人（64%）、「やや満足」：258人（23%）、「やや不満」：52人（5%）、  
「不満」：20人（2%）、未記入：72人（6%）

【考察】

- ・「満足」と「やや満足」で9割近くとなり、大多数の住民から満足度を得られたと考えられる。
- ・自由筆記から、「満足」・「やや満足」では、平等に行き届く販売であった。利用できる店舗が多くて良かった。家計の助けとなり、プレミアム率も良かったといった声が多く寄せられた。
- ・「やや不満」・「不満」では、使える店舗が町内に限られる。現金や補助金で支給してほしい。真に生活に困窮している方に支給してほしいといった意見が寄せられた。

■問9 くらし復興券事業は、町民の生活支援や地域経済に効果があったと思いますか。(1つに○・自由筆記)



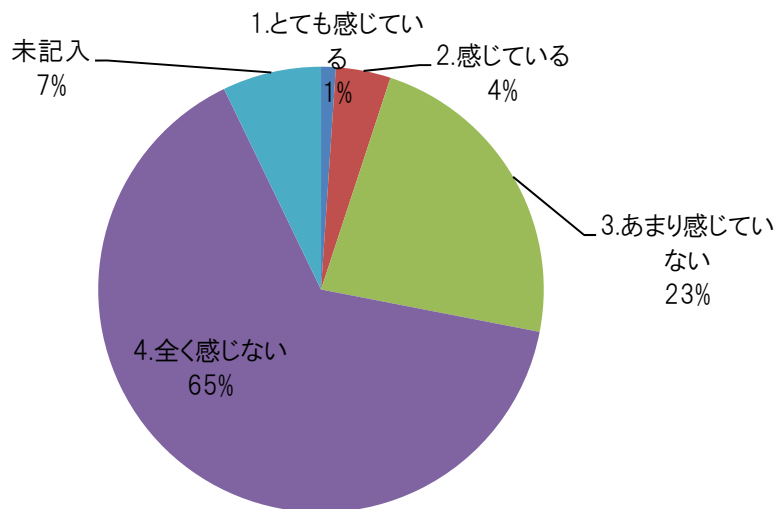
▲「思う」：595人（53%）、「少し思う」：351人（31%）、「あまり思わない」：97

人（8%）、「全く思わない」：12人（1%）、未記入：75人（7%）

【考察】

- ・「思う」と「少し思う」で8割を超え、多くの住民から効果ありの評価を得られたと考えられる。
- ・自由筆記から、「思う」・「少し思う」では、町内での買い物の動機づけになった。生活支援や地域経済支援への貢献。日常的な支出で利用でき家計に恩恵があったといった声が多く寄せられた。
- ・「あまり思わない」・「思わない」では、使える店舗が限られ、使用に偏りがある。生活支援にはなったが事業者支援にはなっていない。買い物券が町外などの意見が寄せられた。

■問 10 家庭内での暴力(言葉によるものを含む)が増えたと感じていますか。  
(1つに○)

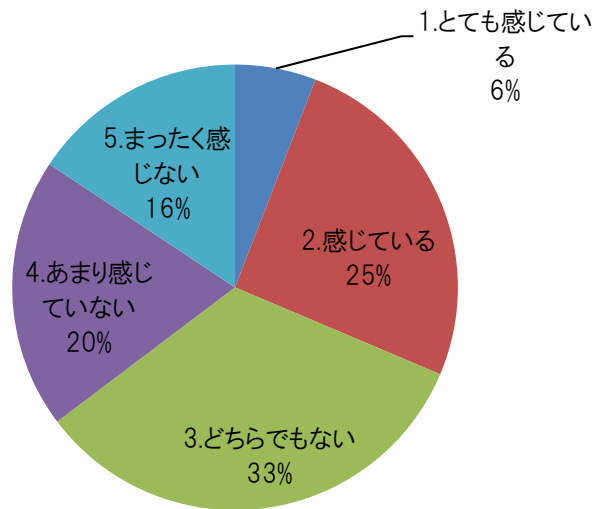


▲「とても感じている」：12人（1%）、「感じている」：45人（4%）、「あまり感じていない」：260人（23%）、「全く感じない」：732人（65%）、未記入：81人（7%）

【考察】

- ・「全く感じない」が約3分の2を占め、多くの家庭では暴力は増えていないと考えられる。
- ・「あまり感じていない」が2割程度あったが、そのような状況下でも何らかの暴力が存在するとした場合、全体の3割弱の家庭に家族間の暴力があるという見方もできる。

■問 11 妊娠・出産を考えている方ですか。(該当者 51 人)  
妊娠・出産へのためらいはありますか。(1つに○)



▲「とても感じている」: 3 人 (6%)、「感じている」: 13 人 (25%)、「どちらでもない」: 17 人 (33%)、「あまり感じていない」: 10 人 (20%)、「全く感じていない」: 8 人 (16%)

【考察】

- ・「とても感じている」と「感じている」が約 3 分の 1 を占め、コロナ禍での妊娠や出産に不安を抱えていることがうかがえる。「あまり感じていない」と「全く感じていない」、「どちらでもない」も同様に 3 分の 1 程度を占め、それぞれが拮抗し分散傾向にあった。いずれにしても、平時と比べると妊娠や出産の不安要素となっていることが考えられる。

■問 12 変化した生活の中で、工夫や節約されていることはありますか。(自由筆記・別添ファイル参照)

【主な内容】

- ・外出や外食を控える
- ・買い物を控え、無駄使いをしない
- ・家のことをする (掃除・整理整頓・断捨離・修繕など)
- ・家での遊びや趣味などの楽しみ
- ・家での手料理やテイクアウトなど食事の工夫
- ・電気、ガス、水道、燃料などの節約
- ・畑仕事や家庭菜園 など

■問 13 新型コロナウイルス感染症対策や支援について、町へ要望したいことはありますか。(自由筆記・別添ファイル参照)

【主な内容】

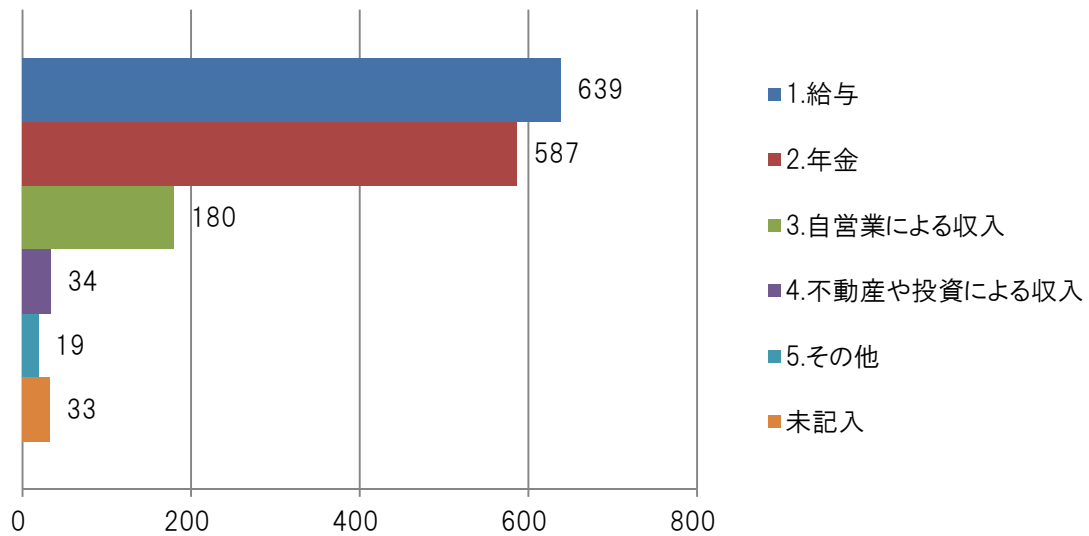
- ・ワクチン接種の継続 (希望者に全員・早く・若い世代から・進捗や効果、副作用



等の情報、経過観察のサポート)

- ・ 町民支援の強化（特にコロナの影響を受けて困っている人や事業者に対して）
- ・ 町の現在の取り組みを維持する・支持する
- ・ 暮らし復興券事業の継続実施
- ・ 情報提供の継続（正しい情報・若者向け・頻度の見直しなど）
- ・ 行政として真に必要な事業を精査して実施 など

■ 問 14 あなたの世帯の主な収入源は、次のうちどれですか。（複数回答）

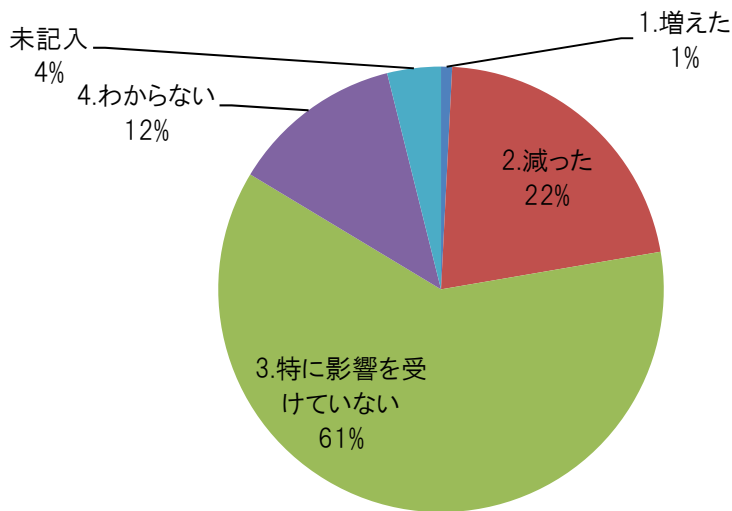


▲ 「給与」：639 人、「年金」：587 人、「自営業による収入」：180 人、「不動産や投資による収入」：34 人、「その他」：19 人、未記入：33 人

【考察】

- ・ 「給与」と「年金」が全体の 8 割以上を占め、大多数の世帯における主な収入源であると考えられる。

■問 15 あなたの世帯全体の収入は、新型コロナウイルスの影響を受けて変わりましたか。(1つに○)

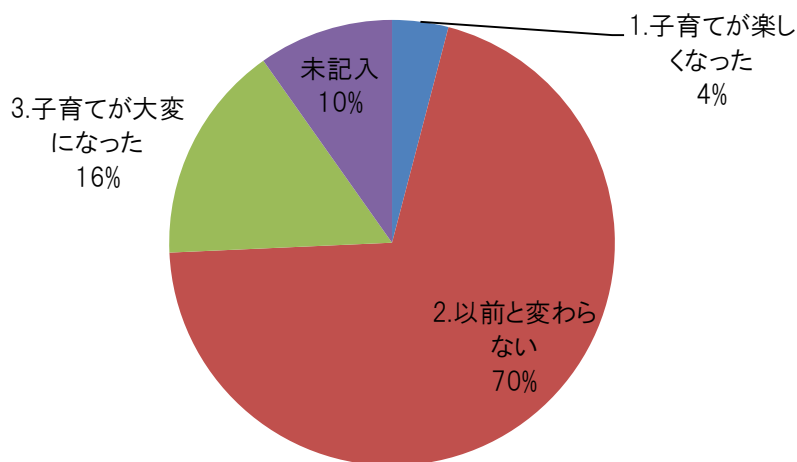


▲「増えた」：9人（1%）、「減った」：243人（22%）、「特に影響を受けていない」：693人（61%）、「わからない」：141人（12%）、未記入：44人（4%）

【考察】

- ・「特に影響を受けていない」が6割を占める一方で、「減った」が2割を超え、個人所得の減少回答を上回る結果となった。
- ・年代別や職種別にみても、前述の問4とほぼ同様の傾向にある。
- ・同一世帯にあっても世帯員の状況を知らず、わからないの回答も一定数を占めた。

■問 16 あなたの世帯は、18歳以下の子を育てる世帯ですか。(該当者 245人)  
子どもと家庭内で過ごす時間が増えたことで、子育てに変化はありましたか。  
(1つに○)



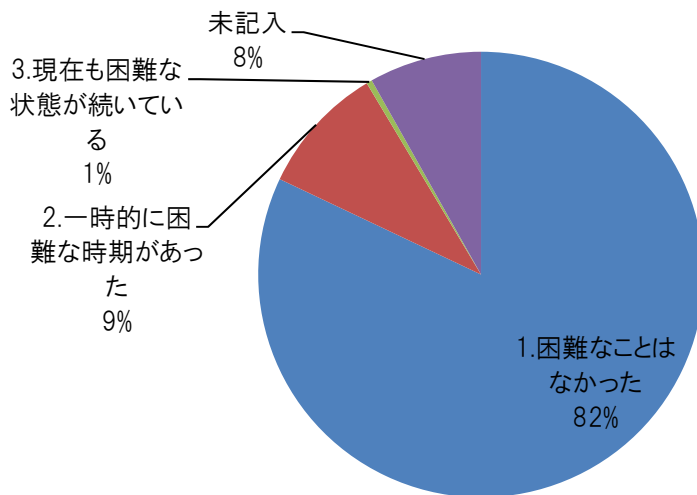
▲「子育てが楽しくなった」：10人（4%）、「以前と変わらない」：172人（70%）、  
「子育てが大変になった」：39人（16%）、未記入：24人（10%）

【考察】

- ・「以前と変わらない」が7割を占める一方で、「子育てが大変になった」が2割弱と、一部の世帯で影響が出ていると思われる。
- ・自由筆記から「変わらない」では、以前と変わらない。以前から家の周りで遊ぶことが多いといった声が寄せられた。
- ・「大変になった」では、家にいることが多くなり、子どもとの時間に苦痛を感じる。子どもたちも親たちも交流の機会が減ったことによるストレス。ストレスを家族にぶつけてしまう。スマホやゲームの時間が増え学力が低下。イベントや部活の縮小で不完全燃焼などといった声が寄せられ、生活の中で様々な弊害が出ていると考えられる。

■問 17-1 18歳以下の子を育てる世帯の方へ。(該当者 245人)

あなたの世帯は、経済的に食事の用意が困難なことがありましたか。  
(外食を除く・1つに○)



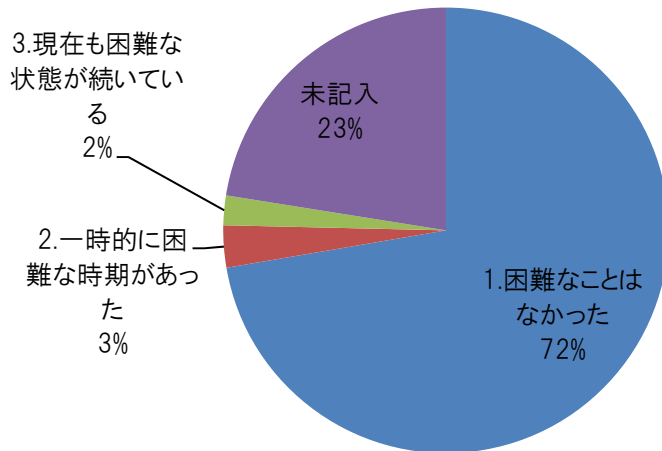
▲「困難なことはなかった」：201人(82%)、「一時的に困難な時期があった」：23人(9%)、「現在も困難な状態が続いている」：1人(1%)、未記入：20人(8%)

【考察】

- ・「困難なことはなかった」が8割以上を占め、多くの世帯では影響がなかったものの、およそ1割は食事に困った又は困ったことがあったと答えており、一部の世帯に影響が確認された。

■問 17-2 問 17-1以外の世帯の方へ。(該当者 885 人)

あなたの世帯は、経済的に食事の用意が困難なことがありましたか。  
(外食を除く・1つに○)

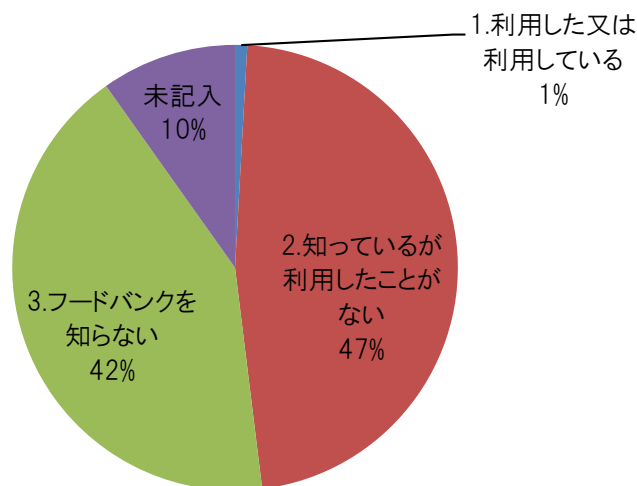


▲「困難なことはなかった」：640 人 (72%)、「一時的に困難な時期があった」：27 人 (3%)、「現在も困難な状態が続いている」：19 人 (2%)、未記入：199 人 (23%)

【考察】

- ・「困難なことはなかった」が7割以上を占め、多くの世帯では影響がなかったと考えられる。子育て世帯に比べ未記入の割合が多く、約4分の1を占め、この部分がどの程度影響があったかは未知数である。

■問 18 フードバンクについてお聞きします。(1つに○)



▲「利用した又は利用している」：10 人 (1%)、「知っているが利用したことがない」：533 人 (47%)、「フードバンクを知らない」：476 人 (42%)、未記入：111 人 (10%)

【考察】

- ・「知っているが利用したことがない」は、およそ5割を占め、前段の問いの結果からも、フードバンクの利用対象者でない方が多いと推測される。

・一方、「フードバンクを知らない」は、4割強を占め、認知度が低い状況である。  
※フードバンクとは、日常生活に困難を抱えている方等への支援として、一時的な食料の提供を行うものです。提供される食料品は、寄付により賄われています。必要とされる方はぜひご相談ください。（社会福祉協議会：Tel86-5511）

## ■町民の皆さまへ（まとめ）

新型コロナウイルス感染症が初めて確認されてから、早2年を迎えようとしています。

この間、私たちの生活は一変し、日常生活における基本的な感染対策や行動変容を柱とする「新しい生活様式」へ移行し、5度にわたる感染波の影響を最小限にとどめてきました。町民の皆さまのご理解とご協力に、改めて感謝申し上げます。

現在、国内や県内、身近な地域における感染状況は比較的落ち着いておりますが、世界中に目を向ければ感染が再拡大する国々も散見され、いまだ終息の見込みは立っておりません。

町では、基本的な感染対策の徹底と経済活動の両立を進めるため、このアンケート結果やお寄せいただいた声を踏まえ、町新型コロナウイルス感染症対策本部を中心に注意喚起やワクチン接種を進めるとともに、一部既に実施しておりますが、影響の大きい中小事業者や生活困窮者の皆さまに対する支援を進めてまいります。

今後も感染状況の変化を捉え、国や県の方針等を見極めながら柔軟な財政措置を行うことで、コロナ禍における安心安全なまちづくりに向け、臨機応変に対応してまいります。